

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		老年医学			4		
開講学期		科目責任者		副責任者			
2 学期		杉本 研		角谷 裕之			
目的							
<p>老年医学は超高齢社会にある日本において、必要不可欠でかつすべての分野に関係する領域である。老年医学講義では臓器別疾患を有する高齢者を「人」として捉え、その全体を診るという視点に基づき、個人が人生を全うすることを医学的な立場から支持し、それを多職種連携により実践するために必要な知識を得て理解し、臨床実習につなげることを目的とする。</p>							
授業到達目標							
<p>高齢者に生じる生物学的老化とともに身体的変化、精神・心理的变化、社会的変化が、疾患の重症度や予後のみならず健康寿命に影響することを基盤とし、高齢者でより注意すべき病態および疾患の診断と治療、リハビリテーションから介護、人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）に至るシームレスなプロセスと問題点を理解し、それらを多職種連携により解決することの重要性を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化のメカニズム（生物学的基盤）を細胞・組織レベルで説明できる。 2. 高齢者の精神・心理的特徴を説明できる。 3. 高齢者の歩行障害の原因とそれに応じた転倒予防を説明できる。 4. 消化器の加齢変化に伴う疾患と高齢者の栄養マネジメントについて説明できる。 5. 高齢者の身体的特徴としての老年症候群の概念を説明でき、高齢者総合機能評価を実施できる。 6. フレイルとサルコペニアの概念、対処法、予防が説明できる。 7. 高齢者の摂食・嚥下機能障害の評価と口腔ケアについて説明できる。 8. 高齢者の周術期管理の特徴が説明できる。 9. 現在の日本社会における高齢者の社会的特徴を説明できる。 10. 慢性腎臓病（CKD）の病態と高齢者における血圧管理について説明できる。 11. 泌尿器の加齢変化による症候と疾患、治療について説明できる。 12. 加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物治療の注意点を説明できる。 13. 心筋梗塞や脳梗塞の基盤となる動脈硬化の病態と評価方法、予防、治療について説明できる。 14. 退院支援、在宅医療について理解し、説明できる。 15. 多様な観点からわが国の高齢者医療の課題を指摘できる。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	9/ 2	月	4	講義	西松	自然	老化のバイオロジー
2	9/ 2	月	5	講義	岡本安	薬理	高齢者の薬物治療
3	9/ 2	月	6	講義	和田健	認知症学	高齢者の社会的特徴と国際生活機能分類の臨床応用
4	9/11	水	1	講義	杉本研	総合老年医学	老年症候群
5	9/11	水	2	講義	杉本研	総合老年医学	高齢者総合機能評価
6	9/11	水	3	講義	杉本研	総合老年医学	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム
7	9/18	水	1	講義	石原武	精神	高齢者の心理的特徴：うつ、せん妄、意欲低下
8	9/18	水	2	講義	向井隆	歯科医療	高齢者の摂食・嚥下障害と口腔ケア
9	9/18	水	3	講義	大平	泌尿器	尿路・生殖器系の加齢性疾患：排尿障害と LOH 症候群
10	9/20	金	1	講義	塩谷	消内	消化器の加齢変化と高齢者の栄養マネジメント
11	9/20	金	2	講義	上村	循内	高齢循環器疾患の病態生理と評価・予防・治療
12	9/20	金	3	講義	佐藤健	麻酔	高齢者の周術期管理
13	9/25	水	1	講義	角谷	総合老年医学	CKD と高齢者の血圧管理
14	9/25	水	2	講義	角谷	総合老年医学	高齢者医療における多職種連携と退院支援
15	9/25	水	3	講義	杉本研	総合老年医学	在宅医療とエンド・オブ・ライフケア

評価方法
<p>[期末試験]80% (授業全般にわたっての理解を多肢選択試験により確認する。)</p> <p>[出席状況 (受講態度)]20% (出席状況と受講態度を重視し、段階的に評価する。)</p> <p>[評価方法]多肢選択試験、出席・受講態度評価</p>
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて
<p>各試験の模範解答を Sindbad システムへアップロードする。</p>
教科書
<p>ISBN-978-4-89013-430-4, 老年医学系統講義テキスト, 日本老年医学会編, 西村書店, 2013 年</p>
参考書
<p>ISBN-9784758304955, 改訂版 健康長寿診療ハンドブック : 実地医家のための老年医学のエッセンス, 日本老年医学会編集, 日本老年医学会, 2019</p>
準備学習 (予習・復習等)
<p>予習: 講義前に講義資料と指定された教科書の該当する範囲に目を通しておくこと。</p> <p>復習: 配布プリントとともに指定教科書を精読し理解を深めること。</p> <p>予習・復習ともに30分程度の学習を要する。</p>
講義についての注意事項
<p>講義中の途中退席は特別な理由がない限り認めない。厳重に対処する。</p> <p>講義中の講義目的外のスマートフォンの使用は禁止する。</p> <p>講義中に質問があれば、積極的に発言すること。</p>
昨年度からの変更点・改善項目
<p>コア・カリの変更に伴い、講義内容と担当講師の一部を変更。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<p>この科目は、主としてコンピテンス・コンピテンシーのうち「I. プロフェッショナリズム」の特に「心身ともに適切に管理できる」と、「III. 医学と関連領域の知識」の全般の達成に向けて設定されている。</p>
ナンバリング
<p>DLGM416</p>